

II. マタイ 25 章 14-30 節 「タラントのたとえ」

始めに

- ・「タラントのたとえ」の鍵語は「忠実」

1. タラントのたとえ

(1) 預けられたタラントの活用：3人の違い（14-18節）

- ・主人がしもべに財産管理を託して旅に出ることは珍しくなかった
- ・「タラント」は最も大きな通貨の単位、一タラント＝約六千万円
- ・どう用いるかは、本人の裁量に
- ・五／二タラント預かったしもべは五／二タラントを得た
- ・一タラントのしもべはお金を活用しなかった

(2) 主人が帰って来て清算（19-30節）

- ・五タラントのしもべと二タラントのしもべの報告
- ・主人の喜びと称賛
- ・一タラントのしもべの報告と言いつ、主人の叱責
- ・主人が厳しい冷酷な者だという思い込み

2. 教えられること

(1) 再臨までかなりの時間がある

- ・19節「かなり時がたってから、しもべたちの主人が帰って来て」

(2) 私たちの人生

- ・主の依託
- ・私たち自身の活用
- ・終わりの日の清算

(3) 託されたものを生かすことをしないしもべ

- ・主人は厳しい苛酷な者、冷酷な者とする誤解
- ・神の愛や憐れみを信じない人の姿
- ・キリスト者でも委ねられたものを生かさなければ滅びるという教えではない
- ・救いは行いによるものではなく恵み（ローマ 3 章 23-24 節）
- ・「外の暗闇に追い出」されるしもべは、始めから主人を信じていない

(4) 託されたものを生かす恵みの時

- ・再臨の遅れは無意味ではない、託されたものを生かす恵みの時
- ・与えられているタラントは異なる
- ・働きの結果は違っても、主は同じように喜び、同じように褒める

(5) さらに豊かな永遠の生

- ・神の恵みに応えて生きる者には、神はさらに豊かなものを
- ・五タラント、二タラントでも「わずかな物」
- ・天に引き上げられたとき、どれほどの祝福があることか